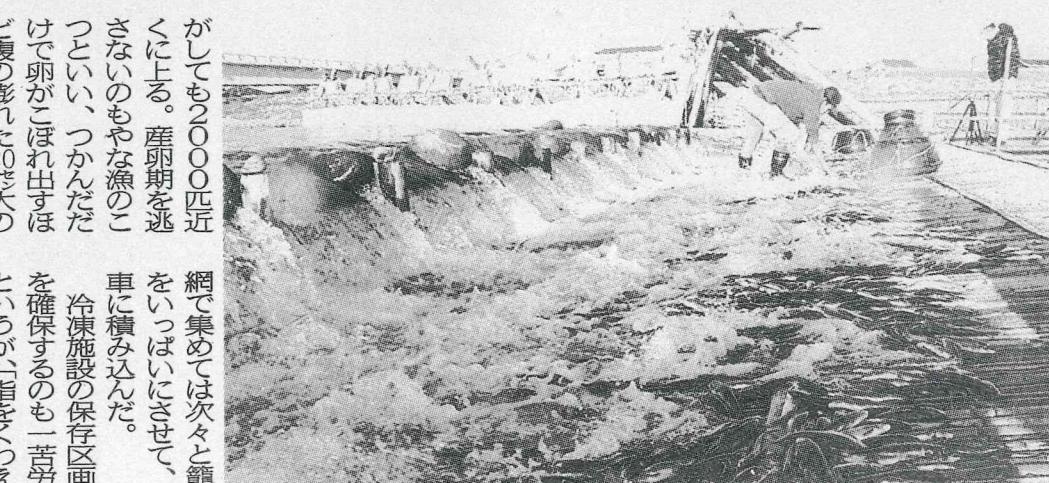


11/16

落ちアユ、けさ“大漁”

朝日の中 落て簾で跳ねる 延岡水郷鮎やな



延岡市の大瀬大橋下
流に架かる延岡水郷鮎
(あゆ) やなにけさ、
きながら跳びはねる光

落て簾(す) いっぱいの
アユが落ち、朝日に輝
きながら跳びはねる光

景が広がった。やな師
の高橋生次さん(71)
によると、まとまつた

量が捕れるのは、先週
に続き今季2度目で、
この先も期待できると
いふ。

高橋さんが午前7時
前に日課の安全点検に
いった。

落ちたアユの量は高

橋さんの目測で80kg以
上。小ぶりの個体を逃

がしても2000匹近く
に上る。産卵期を逃
さないものやな魚のこ
ととい、つかんだだ
けで卵がこぼれ出すほ
ど腹の膨れた20匹の大
子持ちアユが多く見ら
れた。

新型コロナウイルス
対策で、残念ながら今
年は鮎やな一帯での食
事提供が中止されたた
め、確保したアユは全
て急速冷凍して保存。
落て簾では高橋さんら
職人が、ある程度まで
育ったアユを素早く手

網で集めては次々と籠
をいっぱいにさせて、
車に積み込んだ。
冷凍施設の保存区画
を確保するのも一苦労
というが「指をくわえてアユを待つより、忙
しくて手間暇かけた方
がいい」と高橋さん。
子どもの頃から父のや
な漁を手伝い、現在地
での架設が12年目とな
るべテラスは「上流にはまだアユが多く、今
後も期待できる」と心
地よい汗を流してい
た。